

国際ロータリー第2570地区

行田ロータリークラブ

RI会長：カール・ヴィルヘルム・ステンハマー / ガバナー：野中 弘之

会長：内山俊夫 / 幹事：山本憲作

例会日：木曜日

午後12時30分開会

会 場：アドバンテスト

行田クラブハウス

クラブ会報委員会

委員長：境野登章 / 副委員長：廣川和夫

委 員：島田修、鈴木貴大、田中敏男

石渡健司、小菅克祥、廣世雅昭

2005～06 国際ロータリーのテーマ

「超我の奉仕」



SERVICE Above Self

第1942回 合同例会 (10月13日)

行田3クラブ合同例会

ホストクラブ会長挨拶

行田ライオンズクラブ 中田喜大 会長



今年度ホストクラブの行田LCクラブ会長を勤めています、中田で御座います。よろしくお願いたします。

本日は大変いそがしい中、皆様方には多数おいでいただき有難う御座います。

三クラブで合同例会も、明治大学マンドリンクラブ行田演奏会は行田RCの渡辺さんが発案なされてやりましたが、その時に発しまして、今回で合同例会は二十四回になると思います。

行田演奏会が諸般の事情がありまして二十回をもちまして終了しておりますが、その後、明治大学校友会の皆様方が行田、熊谷、等で形を変えて、その演奏会を開いております。本日は木村地域支部長様において頂いております。後ほど御挨拶をお願いしたいと思います。

私達は奉仕という精神で地域の発展、そして平和を願って毎日活動しております。行田LCでは献血を始め、小学生の社会活動、中学生の薬物乱用防止講演会等、地域に密着した活動をしております。今後も地域と共に、我々は歩んでいきたいと思っています。

本日のメインは、イラク問題につきましては日本の第一人者であります、大野元裕様においていただ

いております。大変忙しいお体ではございますが、三クラブ例会で御講演をお願いいたしましたら、ここよく御引き受けていただきました。又、今年はLC300C地キャビネットの会計もお勤めになっております。

イラク問題につきましては、NHKテレビをはじめ民法でも解説していただいているので、皆様方も御顔はご存知ではないかと思えます。

本日はニュースに無い様なイラクの情勢につきまして、色々な御話を聞かせて頂けると思っています。

最後になりますが我々クラブの今後の発展と御参会の皆様方の御健勝を記念申しあげまして、挨拶にかえさせていただきます。

会長挨拶

行田ロータリークラブ 内山俊夫 会長



皆さんこんばんは。本日は3クラブ合同例会に多くの方がご参加いただき、誠に有難うございます。そして、今回は設営担当のライオンズクラブの中田会長様はじめ、ライオンズクラブの皆様には厚く御礼を申し上げます。私は、本年度行田ロータリークラブ40代目の会長を致しております、アパマンショップ㈱エー・アンド・エム内山俊夫でございます。

(次頁へつづく)

行田ロータリークラブは本年度会員数72名の会員で、毎週木曜日アドバンテスクラブハウスを例会場として活動いたしております。

本年度の運営方針は「未来に向けて・親睦から友愛へ」といたし、会員同士また会員家族との理解を深める親睦活動を計画し、会員間の情報・信頼感を深めて、そこから相互の奉仕活動へといけるよう計画を事項致しております。

また、「未来に向けて」に関しましては、7月には「アジアの子どもたちの絵日記展」を開催し、アジアの子どもたちの学校生活をテーマにした絵日記展を博物館にておこない、識字率の向上にむけた活動を致しました。

また、行田市立図書館に3年間にわたり児童向け図書を寄贈し、読み聞かせによる子どもたちの心の発育に手助け出来るように願いを込めて「行田ロータリー文庫」として、現在3000冊あまりのコーナーを設けることが出来ました。

尚、12月8日(木)午前10時30分より行田商工センターホールにおきまして、私立狭山ヶ丘高等学校、小川義男校長先生をお呼びして、「人は考える時にも言葉を使うー読書こそ人をつくるー」と題しまして、公開例会を開催いたします。

小川校長先生は感性の高い発想で、子供たちを育てられております。この機会に多くの保護者、教育者、市民の皆様をお招きして、子どもたちの発育向上に役立てればと思います。本日お集まりの皆様にもあらためてご案内申し上げますが、公開例会へのご出席をお願い申し上げます。

今後とも皆様と心温まる交流が出来、それぞれのクラブが益々活発に地域社会に役立てますよう、祈念いたし挨拶いたします。

講演 大野元裕 様

「イラクの情勢と日本」



本日は石油の話とテロの話、この二つのお話をさせていただきます。

中東やイスラム、アラブ、イラク、こういう国は、と聞かれて皆様どう思われますか。そのあたりについて良くわかっているよ、とおっしゃる方がおられるかも知れませんが、ほとんどの日本人にとっては極めて遠い所の話ではないかと思っております。あまり良くわからないという方が多い、にもかかわらず

イラク、アラブ、とか言うとなんかおかしい所、怖い所と言う話が先に立つパターンが多く、よく知らないけれど否定的なイメージばかり頭に入ってしまう、これが世界に対する認識ではないでしょうか。

ここで頭の中をきれいにしたいのですが、私が中東に十二年間住んでいました時、丁度オウム真理教のサリン事件がありました。その時に友人のアラブ人は私の所にやって来て、大変だね、日本がサリンだらけ、と言うのです。もちろんそんな事はないですよ、サリンは霞が関のある一定の場所で、ある特定の時間にばらまかれた物なのです。ただそのアラブ人、テレビの映像だけを見たり、新聞の写真だけを見ると、日本は怖い国でサリンだらけに見えるのです。

又、逆に我々が日本にいてアラブの国を見ると、たとえば人質や、テロで爆破された所だけを見ると、アラブ中がテロだらけに見えるし、おかしな宗教と見えるのですが、でもごく普通なアラブ人は我々とあまりかわりない明るい人達、これがアラブ人でその意味では私の存知上げているLCの有志達と同じだと言う意味で御座います。あまりかわりがないと言うことです。

こう言ったイメージだけが先に行ってしまうと言うのが、今の我々の感覚だと思います。たとえばイラクの写真やテレビを見ていて、貧しくてかわいそうな国だと思いませんか。

昨年はLCの皆様方にお世話になり、サマワの子供達に孤児院を贈ることで皆さんにお願いをして募金も頂いたのですが、今は確かに可愛そうですが、もともとはそんなに貧乏でない。なぜかと言うと、石油が出る事です。石油が出る事はうらやましいかぎり、税金がありません。医療費もただです。学費も大学に行くまで全部ただです。こんなにすばらしい国はないと思います。

経済面では豊かな国で、普通の人達が高級車、たとえばベンツとかクラウンとか乗り回しているのです。そう言うのが当時のイラクでした。普通の人々がそうですから、上の方の人はものすごいです。

サダム・フセイン、あの人が、今月19日にかわいそうな事に法廷にひきずりだされて、多分、死刑になる可能性が高いとおもわれます。彼が一番上ですからものすごいお金を持っています。大体どれくらい持っているかと言うと、イラクの石油が一日三百万バーレルくらい出ていたのですが、三分の一がサダム・フセインのスイスにある個人の口座に入っています。大体百万バーレルで当時どんなに安く見ても十ドルくらいしました。今は五十ドルくらいですが、百万バーレルかける十ドルだと一万ドル。つまり十億円以上が一日に彼の口座に入っていた、一日十億円ですよ、一度拝んでみたいと思っております。

サダム・フセインの奥様でサジダと言う人がいるのですが、この人は日本に来た事があります。90年の8月に湾岸危機がありましたが、その三ヶ月前に来たのです。それは簡単な病気になりまして、東京の虎ノ門病院に入院したのです。ちなみに何で私が知っているかと言うと、大使に言われて全部アレンジをして彼女を送り出したのですが、たいした病気ではないのですが、イラクの医者がサダムさえ怖いのにその奥様、その奥様にメスを入れられなかった

(次頁へつづく)

からです。そこで日本がいいですよと、虎ノ門病院に入院したのです。

彼女がその時、ボーイング727と言う一番大きな飛行機を特別機に仕立てて、サジダそして子供2人、それとお付の20数名で日本にやって来たのです。病院に入院して簡単な手術をして1週間ほどで退院しました。せっかく日本に来たので、買い物をしたいと言うので、ミキモトや三越へ行かれたのです。買い物をされたのは知っていたのですが、その時私の同僚の外務省の人間に電話がかかってきまして、サジダさんが買い物をしすぎて飛行機に乗り切れないと言うのです。ついては船を仕立ててくれと言うのです。結局、飛行機に乗り切れず船におみやげを乗せて帰ったのです。

日本人は金持ちと言うのですが、買い物で飛行機いっぱい買う人はあまり知らない、それくらい金持ちだったのです。今笑っていますけれど、こういう事を知らない今のイラクはわからない。なぜかと言うとイラクではテロが毎日おこっています。人々は強い不満をいんでいます。こういった不満、経済的に恵まれていないから、そうゆう不満が起きますよと説明をよくされるんですが、たしかにそうかもしれません。ただ経済的には、おそらくイラクは北朝鮮などより恵まれていると私は思います。飢えで死んで行く人はいないのです。しかしそれでもあそこまで不満なのはなぜかと言うと、昔よかったから、つい先日までものすごく良い生活をしていて、それがあつた時、突然悪くなる。そしてその差が不満になるのではないだろうか。

あるいはイラクの場合には、イラク人の普通の人から見れば、だれか他の人のせいで自分達の生活がそこまで落ちたのかと思ってしまう。それはサダム・フセインのせいかもしれない。あるいはブッシュのせいかもしれない。だれか他の人のせいでそこまで落ちてしまうと、この不満が政治的な不満に結びつく。

つまり前からわからないと、今のイラクの人々の感情も、多分わからなくなるだろう。そういったイメージというものをどうしても貧しいという所から入ってしまうと、わかりにくい。そこでいったん、皆様の頭の中をきれいにさせていただいて、石油の話を見せていただきます。

ここの皆さん、ビジネスマンが多いと思います。エコノミストの話の話を聞いていると、大体石油の話を言うのは、はずれます。皆さんご経験でお分かりかと思えますけれども、なぜかと言うと、じつは石油というものは、経済的ファクターだけでは、なかなかわからないと言う商品なのです。

皆様、表で見にくいのですが、石油の供給見込みというのがここに書いてあります。石油の需要というのは年々1.6%ずつ2030年まで伸び行くことになります。とすると2030年までにこの石油の需要が伸びると、当然供給も1.6%ずつ伸びていかないと電気がつかない、車が動かないと、いうことになります。

そこでIEAという石油の消費国側の国際的組織がだした、2030年までの予測をだしているのですが、どの国が石油を供給すれば、電気がずっとつく状態なのかと言う事がここに書いてあります。当然1.6%伸ばすためには、ロシアが有望だと書いてあります。

ロシアを見ると確かに伸びる率が高いのですが、ただ2030年までに、一日あたり三百万バーレルしか伸びない。この伸びでは、イギリスとかノルウェーの国下油田の落ちてゆく分量をカバーしきれない。それくらいしかロシアは伸びない。

ではどこか伸びなくては行けないかと言うと、中東OPECとこれらの日々が伸びないと、石油がたりなくなってしまう。中東OPECは三十年間でロシアの十倍、三千バーレル伸びる中東になっています。

中東OPECとはどういう国かと言うとイランとかサウジアラビアです。この内、今の生産した量より将来において多くの生産ができる余力があるのはイラクとサウジアラビアです。イラクとサウジアラビアが出てこないと、石油というものはいつか足りなくなってしまうかも知れないという、今の見通しです。

ただ、今の段階では残念ながらイラクの石油は、出ず状況になっていない。そうするとどうなるかと言うと、先ほど電気がつかない、車が動かないと言いましたが、多分そんなことはない。なぜかと言うと日本は金持ちですから、今百二十円か百三十円のガソリンが二百円になっても何とか耐えられる。高くてもいやだけれど、買うことができますよね。

しかし、それが一番困るのがおそらく、途上国の貧乏な国です。あるいは、もっと可能性があるのは、これから石油をどんどん使う量を増やすと言うのは、アジアで言うインド、インドネシア、中国です。こういった国々に石油が回らないと、大変になる可能性があるのです。たとえば中国が伸びると言っても、経済的にもそうですが、中国の石油備蓄がいつ無くなるかご存知ですか。

日本では180日強石油備蓄があります。中国には、2010年の目標時でわずか15日分しかないのです。こういったことを知らないと見えてこないのです。

昨年中国が報告を行いました。それはどういうことかと言うと、中国が台湾を侵略するシナリオを報告したのです。軍の報告、それによると27日間で中国は台湾を侵略すると報告があったのです。ところがよく考えて下さい。軍事的にはそうなのでしょうが、あの海域が全部封鎖されて、石油が入ってこなくなると中国は15日しか持たないという事は、今日もし戦闘が始まっても中国は27日、あの海域を全部封鎖する形で戦闘する事が出来ないという事になるのです。

つまり中国の力というのは、今の段階では残念ながらまだ全部の主要な条件を満たす力にはなってない。だからこそ、シベリア経由のパイプラインとか、こういった物に対して中国は興味を示し始めているのではないのでしょうか。

この石油、今後どういう事になるかと言うと、油価長期予測がIEAとしてグラフに出ています。これを見ると、今は少し高いがその後さがって、2030年までゆるやかに少しずつ上がっていると、この程度なら良いだろうと予測できると思います。

じつはこのIEAの予測は、何年もゆるやかな予測なのです。なぜかと言うと需要と供給で考えているからなのです。石油は足りなくはない。需要と供給だけを考えるとこういう事になってしまうのです。

(次頁へつづく)

ただ実際には過去40年ぐらいを見ると、石油の価格というのは高くなったり、低くなったりしているのです。需要と供給では決まらない、では何で決まるのかというと、自然状況や製油所の施設の能力などの問題などありますが、大事な事が幾つかあります。

73年、74年に価格が跳ね上がっています。なぜかといいますと、石油ショックがあった時です。石油ショックと言うのに、中東におけるパレスチナ紛争、これをもとに石油を作る国々が、石油は売らないよと言った為に価格が上がったのです。

その後上がったのは79年。何が合ったかと言うと、イラン革命。その後80年代の高値はイラン・イラク戦争の時、そして91年湾岸戦争、こういった時に上がっています。

今上がっているのは、異常気象でなっています。おそらくイラクを含めた政治的状況と経済的な面で重なっていますが、石油という物は極めて政治的な商品なのです。つまり政治的に安定すれば、安値の方向に期待ができる。政治的に危ない時は高値の方向に振れてしまう。しかもそれは中東の情勢に密接に関与しているという事。

先に申し上げたイラクなどで落ち着いてくると言うことは、石油が出てくるだけではなく、政治的に落ち着くということです。



今度はイラクのテロの話をしていきたいと思えます。テロと戦闘による死者数という表がありますが2003年5月1日、イラクで戦闘が終わったと言われる日、ブッシュ大統領がそう言った日、その日から2週間ほど前までの統計。

何の統計かと言うとアメリカ軍がテロ、又は戦闘で亡くなった数、イラク人が被害にあった数、ここで申し上げたいのは、新聞にイラクでは戦後のごたごたが続いていると新聞に書いてありますが、あれは嘘です。なぜかと言うと、8月ぐらいにグラフの数字が少なくなっている。

これまでイラク全土で色々な事があったのです。レイプや略奪など色々な事があったのですが、3ヶ月もすると下火になるのです。下火になるが、特定のイラク人が不満を多く抱いている地域だけが不安定。したがって戦後のごたごただけではなく、何かの理由があるのです。

どういう場所かと言うと、ファルージャという小さな町があり、戦闘中の4月の初めに米軍によって解放されています。その時にファルージャの人々は

万歳万歳、アメリカ万歳、これでサダム・フセインからこれで逃げられるのだ、有難う。と握手したのです。

ところが4月下旬になると、その人達がデモをしました。私達に職をよこせ、電気がつかない、食べ物がない、なんとかしてくれと。ところがアメリカはこのデモに対しなんとか力で封じ込めようとして、軍事力を使おうとする。その事によって、又デモが続く。それによって不幸なことに2003年4月27日、米兵が恐怖にかられて発砲してしまうのです。無差別に撃って13人のイラク人が死んでしまったのです。

それからはアメリカが力でデモを封じ込めようとした結果、1ヶ月後の5月28日、初めて米兵がファルージャで胸に狙撃されて死んでしまったのです。それからファルージャは、どんどん悪くなって行ったのです。テロのデパートの、典型的な所になって行ったのです。

つまり、力だけで不満を抑えようとしても不満は力だけでは抑えきれないということです。現実に世界最強のアメリカが、なかなかイラクを更生出来ない中で、軍事の専門家が、あれは兵力の集中が足りないのだ。もっと兵隊を集中すれば、イラクは安定するのだ。と言いますが、半分当たり、だけど半分はずれだと思えます。

なぜかと言うと、2003年11月にビクトリーという場所、サダム・フセインの生まれた所、これが極めて悪い場所ですが、ここにアメリカは4千人の部隊を集中し、しかもその部隊は、世界最精鋭の部隊を送り徹底的に攻撃し全部壊し、隠れる所がないように破壊し4千名から6千名の再生部隊を送り込むと、大体その地域は落ち着くのです。

と言う事は、軍事専門家が言うように最大の力で封じ込めれば安定するのですが、各場所に3千名から4千名配置すると米軍は足りなくなるのです。つまり半分あたりで、半分間違いと言うのはこの事です。アメリカでは残念ながらそんなに出来ない。アメリカ以上の強い軍隊は世界には無いですから、イラクを平定することは出来ないと言う事になるのです。

それではどうするか、ここにヒントがあるのです。アメリカ兵の死者数は、アメリカが争闘作戦を行うと米兵も死者が増えるのです。アメリカの力で向かう時は米兵の死者は減るのです。ただ問題は米兵の死者数が減ると、イラク人の死者数が増えるのです。

どうゆう事かと言うと、テロリストというのは卑怯者です。米兵を正面から向かっても負けるのがわかっているのです。ただ逃げてどうするかと言うと、アメリカ以外の軍隊のアメリカに協力する。イラク人や外国人、それでも出来なければ、パイプラインを爆発する事をやり、アメリカを困らせるやり方をする。つまり卑怯者なのです。

偶然の一致ではないですが、最初の争闘作戦2003年11月、この時には、私の同僚であり一人は教え子だったのですが、二人の日本の外交官が殺されてしまったのです。二回目2004年4月、この時は日本の五人の人間が拘束され、三回目2004年5月、その時はハンダさんという方が殺されて、その後9月にはコウダさんという方が殺されてしまいました。そして最近殺されたサイトウさんも争闘作戦中、つまり

(次頁へつづく)

アメリカ人を殺したいけど殺せない。それではアメリカの仲の良い国の人間を、拘束したり殺したりする。これは偶然の一致ではない、と私は思うのです。これがテロリストのやり方なのです。

つまり皆様の方から考えていただければ、弱い方にテロリストは来る、弱く見える所にテロリストは来る、それが一つの鉄則です。もう一つ、我々の愛すべき子供、女性、こういった弱い人達は犠牲になるしかないのです。テロというのは前線から突然くる時がある。戦闘員でない方が殺されることが多々ある。では我々はよわい人間が犠牲になるしかない、という事で終わってよいのか。そうでないと思います。

もうひとつ言えるのは、イラク側がある。どう言う事かと言うと、さきほど申し上げた人質事件が一つの例なのです。あの人質事件はファルージャの町の近くでおきたのです。それはタカトウナオコさんと五人の日本人が2004年4月に拘束されました。その時、拘束をした人達はだれかと言うと、地元の部族だったと言われています。

どうして拘束したかと言うと、アメリカ軍が争闘作戦でファルージャに向かってきて人々は気が立っていた所で、日本人を拘束して少し冷静になったら開放したと言われています。厳密にあのとき2004年4月、一ヶ月間でファルージャの近くで拘束された外国人の数は91名いたのです。そして、89名が開放されています。2名殺されたのです。予想より多くの人が開放されていたのです。

つまりあの時は、地元の人の感情が高ぶり、拘束し、落ち着いたら開放した。もちろん卑劣な行為ですが、まだその時は良いほうでした。2004年5月になると人が帰って来なくなるのです。

どういうことかと言うと、テロのイラクのアルカイドとかのイメージが、あのやりかたは良い。我々も同じやり方をしようではないか。という事でプロのテロ勢力が人質ビジネスに参入して来てしまったのです。同じ事をしていてくれれば良かったのですが、プロで残虐な人達ですから、捕まえておいて首を切ってしまう。またもっとひどい事になってしまうのです。

最初は地元の勢力は良かったのですが、情勢が悪いと地元の部族もプロと同じ事をやってしまう。つまり7月、8月になって地元の部族に捕らわれたのにテロリストと同じやり方で殺されてしまうのです。これは最悪のパターンです。テロリストはどこにでもいる可能性があります。しかも、とんでもないやつらだ。でも、ごくごく一部の人が地元の支持を受けて広がった時は、対処が出来なくなる時が一番最悪のパターン。

たとえば人質を取るときに、今はイスラム教の話はあまり出来ませんが、イスラム教の中には法律があります。コウランを読んだ事がありますか。でもお勧めしません。なぜ勧めないかと言うとコウランはつまらないのです。聖書は物語の部分が多いのです。ところがコウランは説教集なのです。こうしろ、ああしろ、つまらない、ああしろ、こうしろを組み立ていくと法律になるのです。

法体系として何千年もやっているわけですが、その中にイスラム教は戦時国際法の教えがあります。戦闘中の国際法ですね。その中に、人質の規定があるのです。私も大学院の時習いましたから、普通の

イスラム教を少し勉強すれば知っているのです。

どういう規定なのかと言うと戦争中は人質を取っても良いが、それが民間人とわかったら開放してはいけない。つぎに、取った人質には正当な裁判をやってやるべきだ。そして人質を死刑にする場合もあるけれども、残虐なやり方で処刑してはいけない、と書いてある。

この事を聞くと真当に聞こえませんか。これが普通なのですが、これをテロリストは逆なのです。

その一、アメリカは戦争が終わっている。と言っているが、駐留しているのだから、まだ戦争中だ。したがって、人質は取ってもよろしい。

その二、日本人のコウダ、ショウセイと言う人を人質に取って見たら、本人は民間人と言うが、あれは疑いなくアメリカのスパイだからよろしい。

その三、我々なりの裁判を受けさせてやる。

その四、本当は首を切ったり残虐な事をやってはいけないのだけれど、アメリカはもっとイラク人にひどい事をやっているのだから、あれは許される。

こう言う無茶な事になってしまう。こんな教えは普通、誰も受け入れない。しかし、自分達が追い込まれて被害者意識を持てば持つほど、いつの間にか、不思議なおしえを受け入れてしまう。テロリストが教えを広げる基盤が広がってしまう。こう言う常識はロンドンでもありました。

そういう事になると、我々はどうにも防ぎようが無いと言う事になります。したがって先ほど申しましたが、力だけでは防ぎようが無い。そこで我々がやるべき事は、こう言う追い込まれた状況を作らない事が一番大事な事と思います。

私がシリアと言う国におりました時、言っただけかも知れませんが、政治分野の取りまとめをしていたのですが、その中の一つの仕事にパレスチナの過激派との接触がありました。ほぼ毎日のように接触するわけですが、徐々に仲良くなって来たのです。

過激派とはいえ、不謹慎な言い方で申しわけないですが、ある過激派と接触していて、この過激派は一ヶ月か、二ヶ月に一度自爆テロをしていました。その人の中に、そんなにイスラエルが憎いのなら、毎日、自爆テロをやれば良いのでは、と言う話をしたのです。そしたら彼、真赤になって怒りました。

彼の言ったのは、自爆テロというのは大変なんだよ。教育をサポートするスタッフを全部そろえて、リクルートする事から大変なのです。そうとう追い込まれた人間でないと、自爆などしない。そうだと行って連れてきて、教育、サポートのスタッフを付けて、最後は彼の面倒をすべて見てやる。そういう体制をして、さあ行ってこいと送り出すと、現場へ行く前に母親の顔を思い出して帰ってしまうのだそうです。これが人間だよ、と言われました。私もその通りだと思うのです。

ところがイラクでは、ほぼ毎週のように自爆テロが起こっている。これはどう言うことかと言うと、そうとう追い込まれたと感じている人が多いということなのです。

行田LCで以前話をしましたが、サマワに孤児院を作る理由のひとつは、孤児とか社会的弱者というのは戦後のごたごたの時期の一番の犠牲者なのです。

(次頁へつづく)

食事もない、何の希望もない、そんな時期に日本のやくざと同じです。ちょっとはみだしている人いいことを言って、やくざにしてしまうのと同じなのです。いいものを食べさせてあげるよ。いい思いをさせてあげるよ。そしてアメリカをやっつけようというテロ組織があるのです。

こういうのがアメリカのブッシュ大統領はわかっていないのです。まず、治安を落ち着かせましょう。それから復興や社会の面倒やら政治をしましょう。というのがアメリカの立場です。それがイラクでは違うのです。

その意味で我々LCは良いことをしているのだなと思うのは、LC、RCも同じだと思うのです。まず自由があって、そして知性、それから我々の安全というものを考えることが重要なのだと思います。

ブッシュ大統領がやったのは、アメリカがイラクで戦争をしていきなり戦えば、世界最強の軍隊ですから勝つことが出来ます。

我々の安全が反テロがやって、それをやった後に何とかしようという知恵がない。これがアメリカがやっている正義かもしれませんが、残念ながらそれは方法論としては私は間違いだと思います。

我々は教えられている自由と知性と我々の安全というものは、同時に並行的に進まない平和には対処できないし、また日本ももしかすると危ない可能性がある。というのも、10年前考えていただきたいのですが、日本でテロがあるよと私がもし言ったらとします。そうするとほとんどの人が、そんな馬鹿なことはいえないじゃないか。

ところが最近では、電車のつり広告などで、どこどこでテロがあるのだと書くと、その週刊誌は売れるのだそうです。たった10年でテロに直面する恐れを感じ始めたのです。

社会はそれだけゆがんでいるのだということをおそらく直感している。こういった社会のゆがみというものをRCもLCも、おそらく我々にはある程度の力がある。それを一つ一つ携えていくことが、未来の子供たち、我々にとっての安全であるし、家族にとっても安全であるのではないだろうかと思っております。

これで本日の講演といたします。



ニコニコ報告

- ☆内山会長…3クラブ合同例会、皆様よろしくお願ひします。
- ☆山本(憲)幹事…ライオンズクラブの皆様お世話になります。
- ☆渡辺会員…3クラブ合同例会おめでとうございます。
- ☆小山会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆佐藤会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆小林会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆森島会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆小池(利)会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆小沢会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆坂本会員…ライオンズクラブ様、お世話になります。
- ☆古沢(勇)会員…3クラブ例会楽しみにしていました。
- ☆大野会員…大野元裕様、ご講演ありがとうございます。
- ☆横田会員…今日はお世話になります。
- ☆岡田会員…今日はお世話になります。
- ☆鈴木(康)会員…今日はお世話になります。
- ☆中島会員…今日はお世話になります。
- ☆小島会員…今日はお世話になります。
- ☆植田会員…今日はお世話になります。
- ☆境野会員…今日はお世話になります。
- ☆鈴木(貴)会員…今日はお世話になります。

合計¥23000

